

令和4年度 かほく市立金津小学校 学校評価 中間報告書

重点目標	自己評価						（主担当）	今後の方向 （改善計画等）
	具体的取組 （★：本年度重点評価項目）	評価の観点	達成度判断基準	取組状況	資料	達成度		
1 基礎的・基本的な学習内容の確かな定着と活用力の育成	① 個に応じた指導を効果的に取り入れ、基礎学力の定着を図る。	【成果指標】 基礎的な計算力や漢字の読み書きの力がついている。	漢字・計算テストの平均点が全ての学級において A: 90点以上 B: 80点以上 C: 70点以上 D: 70点未満	計算タイムで学習進度に応じたプリントに取り組み、合格した児童からミライシードのドリルパークで個人の苦手箇所を徹底的に復習している。また、ぐんぐんタイムで補充的な学習に取り組んでいる。	【資料1】 学期末漢字・計算テスト	A	釜井	授業では、知識として定着させるものはしっかりと教えて理解を深める。正しい用語理解や定着に努める。計算タイムやぐんぐんタイムで児童がどこでつまづいているのか実態を把握して、間違えた問題を繰り返し復習することで基礎学力の定着を図っていく。
	② 学び合いの土台となる「金津っ子学びのスタイル～あさはよし～」の着実な定着を図る。	【成果指標】 5つの項目について、児童は常に意識し、一定の定着率に達している。	期末アンケートにおける達成率80%以上の学級数が A: 5学級以上 B: 4学級以上 C: 3学級以上 D: 3学級未満	毎月の生活目標と連動する形で、あさはよしの重点項目を決めて、月初めに全校児童に知らせる。第4週に強化週間を設定して、どれだけできたかをふり返る取り組みを行っている。また、週に一度教員自身が行う取り組みにどう努めているかアンケートをすることで意識化を図っている。	【資料2】 「5つの共通実践」(7月)の教員自己評価	A	釜井	重点項目を決めることで、その月は意識して取り組むことができた。しかし、その月が終わると崩れてしまうことがあり、継続的に意識していくことが難しかった。また、個人間で達成目標となる姿が違ったため、評価にはばらつきがあった。2学期は、重点項目は全校で決めるが、その目標となる具体的な姿は各学年で決めることで、より実態に応じた目標としていくようにする。
	③ 吟味した「深めの発問や活動」を取り入れ、授業後半の充実を図る。	【努力指標】 学びが深まる深めの発問や活動を取り入れている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	「5つの共通実践」のアンケートを毎週行い、意識化を図っている。また、月に一度児童のふり返りをもとにして、その時間の深めの発問がどうであったかを検証する取り組みを行っている。	教員自己評価	A	釜井	深めの発問を全教員が意識して取り組んでいる。その発問がどうであったか、成果として検証していくことが今後必要であると考え。また、研究授業や相互参観週間を通して、深めの発問がどうであったかを話し合うようにしていく。
	⑤★ カリキュラム・マネジメントを推進し、自ら考え行動する力を育成する。	【努力指標】 カリキュラム・マネジメントの柱「自ら考え行動する力の育成」を意識して、指導を行っている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	・昨年度、カリ・マネの柱に対して、より具体的に付けたい力を話し合った結果、「課題を見出し、計画を立て、解決する力」となり、低中高学年別にさらに具体的な力を明らかにした。そして、それらの力が児童についてきたか、その評価を生活科・総合的な学習と行事(運動会・6年生を送る会)で行うことにし、現在、取り組みを進めている。	教員自己評価	A	教務(瀧田)	・付けたい力がどの程度付けられているかを把握するため、児童と教師の双方から、同じシートを使って評価を行い、それを擦り合わせることによって現状を明らかにし、後期の取組を考えたい。その取組は、年間指導計画の内容を変更したり、付け足したりしながら実施していく。
	⑥★ 1人1台端末を積極的に活用し、学習活動の充実を図る。	【努力指標】 1人1台端末を積極的に活用している。 【成果指標】 1人1台端末を使った授業が楽しいと感じている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満 楽しいと感じている児童が A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	・校内研修やOJTを活用し、全教員が活用方法を学ぶ。全担任がOJTで活用事例を紹介するようにしたこと、様々な取組が全教員に伝わるようにしている。 ・1日2回以上児童がタブレットを活用できるように、教師が授業で活用する機会を設けている。全校集会や委員会、器械運動の発表など積極的にミートを活用することができている。	教員自己評価 児童アンケート	D A	山口智	・高学年を中心に活用することはできているが、学習を深めたり、考えを交流したりする場面で活用することに抵抗を感じている教員もいる。今後も活用事例を教員に周知しながら、活用の幅を広げていきたい。また、低学年を中心に活用できない場面が多かった。学年の実態に応じた活用方法も周知していきたい。 ・児童は学習のツールとして、抵抗なく活用できている。タイピングの練習にも意欲的に取り組んでいる。今後も積極的に活用する機会を設けていく。

重点目標	自己評価						（主担当） （記入）	今後の方向 （改善計画等）
	具体的取組 （★：本年度重点評価項目）	評価の観点	達成度判断基準	取組状況	資料	達成度		
2 正しく判断し、 進んで行動で できる力の育成と 共感的人間関 係づくりの推進	① 「めあて」や「きまり」に対 する自己評価を定期的・継続 的にを行い、よりよい行動へ の意識と実践力を高める。	【成果指標】 生活目標を意識し、よりよ い行動ができるように取り 組んでいる。	生活目標のふり返りにおい て、目標を8割以上達成でき た児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	集会の生活目標の話を劇をするなど して児童主体で行い、全校児童に呼 びかけている。先生発信ではなく、児 童発信となることで、より自分事とし て生活目標のことをとらえ、心がけて 生活するようになってきていると感じ る。ふりかえりの発表も定着し、自分 をふりかえって気づく機会が次へと つながっている。	【資料3】 生活目標集計表	A	山口那	生活目標の発表やふりかえりの取り 組みを継続し、自分ごととしてとらえて 生活する意識をもたせる。
		【成果指標】 セルフチェックを通して、 自己のよりよい生活習慣 の定着に取り組んでいる。	セルフチェックカードが「ばっ ちり」（目標を8割以上達成） できた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	どの学年も月を追うごとに満点となる 児童が増えている。生活習慣が定着 してきている様子がうかがえる。	【資料4】 セルフチェック集 計表	A	山口那	規則正しい生活ができているか確認し たり自覚したりできるよう、セルフ チェックカードの取り組みを継続してい く。
	② ★ 互いのよさを認め合う場や 手だてを工夫し、自他を大 切にする心身の育成を図 る。	【努力指標】 よさを認める場の設定や、 よさを伝えることに積極的 に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	授業で生徒指導の三機能（自己決 定、共感的人間関係、自己存在感） のうち、自己存在感を大切に組み 組んでいる。教師が意図的に存在感を 実感できるような場の設定を意識し て授業づくりを行っている。	教員自己評価	A	佐竹	今後も授業や日常の児童の頑張りを クラスや学校全体に広めていき、価値 付けをすることを継続し、自分に自信 がもてるようにしていきたい。
		【成果指標】★ 児童は、自分のよさに気 づいている。	「自分にはよいところがあ る」と回答する児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	いいねカードを全校で実施し、同学 年や異学年の良さを見つけ、伝え、 広げる活動を行った。全校集会で 日々の頑張りをスライドで紹介する。	【資料】 児童アンケート No.17	C		行事を通して定期的に児童同士で友 だちの良さを見つけ認める活動を行っ ていき、素直なコメントも紹介したり掲 示したりしていく。特に運動会では「自 分しか知らない〇〇さんの頑張ってい るところ」など書きたくなるようなキャッ チフレーズや見る視点を提示してい きたい。
③ ★ いじめ・不登校・問題行動 の早期発見に努める。事 案に対しては全職員で情 報共有を図るとともに、対 策委員会を迅速に開催し、 組織的に対応する。	【努力指標】★ 支援シートを作成した児童 を中心に、全校体制で支 援を行うとともに、いじめ や問題行動の未然防止に 取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	毎月いじめアンケートの実施をし、情 報収集の1つにしている。日々の児 童の様子を全職員で見取り、気にな ることがあったときにすぐに情報交換 を行っている。	【資料】 教師児童生活ア ンケート集計結 果	A	佐竹	今後も教職員間の情報共有を継続し ていく。また、管理職への・連絡・相 談・報告を徹底し、組織で対応でき るようにしていく。指導の記録を残してい く。いじめアンケートでは、学校で行っ ただけではつかめなかったことが、持 ち帰りアンケートの実施を通してつか むことができた。今後も児童の実態を つかむツールとして活用していきたい。	
④ 生徒指導の3機能を生か した教育活動を行う。	【努力指標】 学習や生活に生徒指導の 3機能を生かしている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	授業では、自己存在感を中心に取 組んでいるが、自己決定する場、共 感的に学習できるように、学習指導 部と連携して、振り返りの充実を目 指している。また、行事や生活目標、 あさはよしでは、めあてをクラスで決 め、振り返りまで行う事を繰り返し取 組んでいる。	【資料】 教師児童生活ア ンケート集計結 果	A	佐竹	今後も、生徒指導の3機能（自己決 定、自己存在感、共感的人間関係）を 生かすことを意識して、学習や生活、 行事等に取り組んでいく。	

重点目標		自己評価					（主担当） （記入）	今後の方向 （改善計画等）	
		具体的取組 （★：本年度重点評価項目）	評価の観点	達成度判断基準	取組状況	資料			達成度
3	情報豊かな心の育成	① ★ 道徳科の充実を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。	【成果指標】 道徳の授業づくりを工夫する。 ア 中心発問の吟味 イ 言語活動の充実 ウ 価値の自覚化 エ 道徳掲示の蓄積	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	5月に道徳推進教師が提案授業をしたことで、授業の仕方を教師間で共通理解できて良かった。また、GIGAの研修でICT機器を使った気持ちの表現方法も学ぶことができた。昨年度に引き続き、給食時に子ども達に授業の様子を放送して道徳の授業での頑張りを伝えている。	教員自己評価	A	出倉	本校の重点目標である、「親切・思いやり」「希望と勇氣」を教師、児童が共有していく必要がある。そのために、授業や放送等で重点目標について共有する場を持つ。また、別業をもとに意識して声かけや指導をしていく。
		② 「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。	【成果指標】 「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。 【努力指標】 講師等を招き、体験活動の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満 肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・年度初めの「金津の森活用計画」に基づいた活動を今年度は順調に実施することができた。 ・生活科・総合的な学習をはじめ、学年に応じた金津の森の活用をすることができている。 ・体験活動では、「野菜植え・収穫」「田植え・稲刈り」等で、児童は地域のよさや地域の方々の優しさを感じ取りながら体験活動を行うことができた。	教員自己評価	A	教務（瀧田）	・「金津の森」は、2学期以降も様々な場面で活用していく。 ・金津の森のよさを、児童の思いに沿いながら地域に発信していきたい。 ・今後、コミスク事業における金津の森の活用では、学校コーディネーターと連携しながら、地域の人材を活用し、講師を招いて児童の豊かな感性を養いたい。さらに、ねらいに合った地域人材の発掘を進めていきたい。 ・金津の森プロジェクトを通して、環境に目を向けられる児童の育成を図っていく。
4	健康と体力の向上に心がけ、本気でがんばるたくましい力の育成	① ★ 体力アップ1校1プランをもとに、体育の授業や「風っ子タイム」を通して体力向上の目標達成に努める。	【努力指標】 教科体育において、課題となる運動能力の強化を含め、体力向上に取り組んでいる。 【成果指標】 児童は風っ子タイムに楽しく取り組んでいる	肯定的な評価をする教員が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 風っ子タイムに楽しく取り組んでいる児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・教科体育の準備運動では「跳」の運動や柔軟性を高めるストレッチ等を各学年が取り入れて、学習を展開している。5月、7月には風っ子タイムを行い、異学年で運動に親しむ機会を設けた。	教員自己評価	A	山口智	・今後も「跳」の運動を準備運動に取り入れていく。2学期以降は、運動会やマラソン大会などの体育行事で目標を持たせ、達成に向かって運動に親しむことが出来るように指導する。また、風っ子タイムも体育委員会を中心に今後も行っていく。
		② ★ 視力の低下防止のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携して生活習慣の定着を図る。	【努力指標】 視力をはじめ健康管理等の指導の充実に取り組んでいる。 【成果指標】 ☆ 児童には、健康的で規則正しい生活習慣が定着している。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満 毎月のセルフチェックの結果及び学期末、児童・保護者アンケートが A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・年間計画の作成 ・視力B以下の児童、保護者に受診勧告 ・6月「あさはよし」の学習規律にあわせて「よい姿勢」を重点的に取り組む ・7月の全校集会で視力低下防止の保健指導	教員自己評価	A	田中	目の健康を通して生活リズムを整える大切さを指導していく。 ・「あさはよし」のよい姿勢の意識向上の呼びかけを継続する。 ・9月視力測定時に目の健康についての保健指導を行う。
						【資料】 児童アンケートNo.14 保護者アンケートNo.10	B	田中	・ICT担当教員と協力し、メディアと目の健康について保健指導を行う。 ・学校保健委員会のテーマに取り上げ、全校児童や保護者で考える機会を作る。

重点目標	自己評価						今後の方向 (改善計画等)	
	具体的取組 (★:本年度重点評価項目)	評価の観点	達成度判断基準	取組状況	資料	達成度		
5 家庭や地域から信頼され、連携して子どもを育てる学校づくりの推進	①	各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	【成果指標】 HPや学校だより等各種たよりで、学校の情報を発信している。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満 肯定的な評価をする保護者が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	1ヶ月に1枚以上、学校便り、各学級からの学年便り等を出している。また、学校行事等の情報はHPIにて情報を発信している。	教員自己評価 【資料】 保護者アンケート No.14	A A	教頭・山口智 ・今後も月に1枚以上の学校便り、学級便りを出す。ホームページ更新も定期的にを行い、家庭に学校の情報や教育成果が伝わるようにしていく。また、2学期から導入されるコードモンを活用しながら、家庭との連絡を密にしていきたい。
	①★	会議や行事、PTA活動の効率化と最終退校時刻の設定を行う。	【努力指標】 実施計画に基づき、各自が業務改善を意識しながら取組を進めている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	会議等の効率化と定時退校日や最終退校時刻の設定を行っている。4～7月の時間外勤務時間は、月1人あたり平均44.1時間(昨年度35.8時間)である。業務の効率化については、多忙な月があることや個人差の問題があり、見直しが必要である。	教員自己評価	C	
6 教職員の働き方の徹底と人材育成	②★	PDCAサイクルを意識した提案と学校全体の達成状況の把握に努め、担当として責任を持って業務を遂行する。	【努力指標】 PDCAサイクルを意識して、担当業務を進めている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	学校経営方針に基づき、各担当がPDCAサイクルを意識しながら、責任を持って業務を進めている。	教員自己評価	A	教頭 今後も、全職員の共通理解・共通行動が図られるよう、各担当がわかりやすい提案に努めていく。PDCAについては、特に検証・改善を確実にを行い、さらによりよいものにしていく。

※項目・基準変更

R4 最終(全22項目)	A…18	B…1	C…2	D…1
R3 最終(全24項目)	A…20	B…3	C…1	D…0
R3 中間(全24項目)	A…23	B…0	C…1	D…0
R2 最終(全22項目)	A…20	B…1	C…1	D…0
R2 中間(全22項目)	A…20	B…1	C…0	D…1
R1 最終(全22項目)	A…19	B…2	C…0	D…1
R1 中間(全22項目)	A…19	B…2	C…0	D…1
H30最終(全22項目)	A…19	B…3	C…0	D…0
H30中間(全22項目)	A…17	B…4	C…1	D…0
H29最終(全22項目)	A…11	B…8	C…3	D…0
H29中間(全22項目)	A…11	B…5	C…4	D…0